

作成日 令和5年3月31日

## 短期留学報告書

標記について、下記のとおり報告します。

記

## ○基本情報

氏名	所属 (令和4年度)	
学籍番号	留学期間	令和5年2月～令和5年3月
留学先国・地域	留学先(学校)	RMIT university

## ○報告内容

## 1. 留学前準備について(留学に参加した理由、留学の目的・目標等) ※300字程度以上が目安

私の母親は英語に携わる仕事をしています。そのため、幼少期の頃から、英語は私にとって一番身近な教科であり、将来は留学に行きたいという願望を漠然と抱いていました。しかし、2020年の大学入学時、コロナウイルスが流行し、その影響でイベントの参加や生徒同士の交流ができなく、当然、大学の留学プログラムも中止になってしまいました。そんな中、日本で英語の学習がもっと出来ないかと考え、英会話スクールに通ったり、外国人の友人を作ったりと、英語を使う機会を増やす挑戦をしましたが、日本という環境に甘え、どうしても日本語に頼ってしまい、英語の上達を体感することができませんでした。このような経験をきっかけに、日本語に頼ることのできない環境で、英語の学習がしたいと思い、漠然と抱いていた留学の願望が、留学に参加するという決意に変わり、今回、本留学に参加させていただきました。留学の目的としては、英語と日本語での表現の仕方の違いを学習したり、英語を話す能力を向上させたりするのはもちろんのこと、留学に来たからこそ見ることのできる英語圏の文化や価値観に触れ、自分の中の世界観を広げることも目標としました。また、留学を通して得た価値観を日本での生活にも役立て、自分自身の成長にもつなげたいと考えています。

## 2. 留学中に心がけたこと、努力したこと(授業、日常生活、留学中の活動等) ※300字程度以上が目安

留学中、私のクラスは日本人が私一人だけだったので、当然ですがすべて英語で会話をしなければならない状況でした。そのため、どうしたら相手に自分が言いたいことが上手く伝わるか、かつ相手がわかりやすいかを考えながら、話すことを心がけていました。私のクラスメイトは韓国人とサウジアラビア人の生徒で、それぞれ英語の発音の仕方が異なり、聞き取るのも伝えるのも難しかったです。例えば、私たち日本人はButをバットと発音することが多いと思いますが、サウジアラビア人の生徒はバッタと発音していて、最初はButと言っていることが分かりませんでした。このように、同じ言語でも地域によって発音の特徴があることを実感し、私が聞き取れなかつたのと同じように相手も私の発音が聞き取れないことがあるのだと学びました。できる限り、ネイティブに近い正しい発音で話すことを心がけましたが、どうしても伝わらない時は、翻訳機などを使って文字で示し、「伝えること」そのものを諦めないように努力しました。

## 3. 留学の成果について(留学の目的・目標の達成具合、新たに発見したこと、感じたこと等) ※300字程度以上が目安

留学中では、まず日本との文化の違いに驚きました。メルボルンでは、日の入り時間が遅く、夜の9時までは空が明るいですが、夜の9時を過ぎると急に暗くなり、10時には真っ暗になります。そのため、各家庭では、食事やお風呂、犬の散歩などは明るいうちに済ませ、10時以降は自分の部屋でゆっくり静かに過ごし、12時には就寝という生活習慣が一般的でした。日本では、私自身、夜の11時・12時に帰宅し深夜1時・2時に就寝する生活が続いていることもあり、メルボルンでの生活はとても健康的であると感じました。また、メルボルンでは、朝カフェにいく文化があり、街の多くのカフェが朝の6時頃から開店しています。朝カフェで朝ごはんとお茶を楽しんで、コーヒーを片手に出勤していく人々の姿はとても余裕のある素敵なお雰囲気でした。また、メルボルンでの生活では「自由さ」をとても感じました。例えば、日本の電車の中では、基本的に静かに過ごし、車内で大きな声で話したり通話したりするのではなく、メルボルンでは、車内でも友人と自由に会話したり、家族や会社の人と自由に電話したりして、ですが、それが迷惑行為になっているわけでもなく、車内全体の空気がとても自由な雰囲気で、私はとても居心地がよかったです。このように、当たり前だと感じていたルールやモラルは、他の国だと縛られることのないものだったりします。自分が生まれた環境や今いる環境が必ず自分に合っている場所とは限らず、環境を変えてみることで、自分の居心地の良い場所が見えてきたりします。無理に我慢して、同じ環境にこだわる必要はなく、世界の多文化に触れて、その環境で過ごす自分を客観的に見てあげるのも、留学の一つの意義なのかななど感じました。

## 4. 留学で学んだことを今後、どのように活かしたいか ※300字程度以上が目安

今回の留学で、私は文化の違いを受け入れることや受け入れてもらうことの難しさを学ぶことができました。文化の相互理解は、留学においてとても重要で、日本での「当たり前」は外国では当たり前でないことを実感しました。オーストラリアの人々から見て、私は留学生であり外国人であったため、文化の違いを受け入れてもらうことが多かったかもしれません(朝ご飯を食べない習慣やお風呂で頭髪を毎日洗う習慣をホストマザーは文化の違いとして理解してくれていたと思います)。ですが、私自身もオーストラリア人やクラスメイトのそれぞれの価値観や文化を自分なりに解釈して受け入れていくことも多かったように思います(サウジアラビアの方は宗教の関係で豚肉とアルコールを摂取できないため、お昼ご飯と一緒に食べる時はその食材が入っていない飲食店に行くよう心がけたりしていました)。このように、私自身が「外国人」という立場になることで、母国でないところで生活している人々の大変さを、初めて理解しました。日本にもたくさんのお外人がいて、それぞれ自分の仕事や勉強に励む中、自分の国と違う日本の文化を受け入れ理解していくことはとても難しく、毎日が努力の積み重ねだと思います。私は日本人として、日本に来ている外国人の方々をどれだけ理解して受け入れているんだろうと考えた時、もっと親切に対応できたのではないかと反省しました。自分が「外国人」の立場になって感じたことや気づいたことを活かして、もし日本に来ている外国人の方で困っている方がいたら、サポートしていけたらいいなと思いました。また、留学中に英語で話すことや話しかけることなどのコミュニケーション能力も学ぶことができたので、積極的に今後も外国人の方とコミュニケーションをとっていけたらいいなと思います。

留学先国・地域	オーストラリア・メルボルン	留学先(学校)	RMIT university
---------	---------------	---------	-----------------

5. 留学中の画像(お気に入りのスナップ) ※Excelの「挿入」メニューから「画像」をクリックし、挿入する画像を選択・挿入してください。<sup>1枚以上</sup>

写真の説明①ビクトリア国立美術館:アジアやヨーロッパの美術作品が多数展示されていてとても興味深かったです。



写真の説明②ビクトリア州立図書館:日本ではあまり見ない宮殿のような建築でとても美しく、壮大でした。



写真の説明③メルボルンの街並み:ヤラ川の上を優雅にはしるボートや、中央に聳え立つメルボルン・スカイツリーのタワー。



写真の説明④ブライトンビーチ(サンセット):カラフルなビーチハウスが有名なメルボルンを代表するビーチ。サンセットがとても綺麗でした。

## 6. 外国語での記述欄(留学先国・地域の言語で、留学中の生活、成果等について、自由にご記入ください。)※英語150 words以上が目安

I really enjoyed studying in Melbourne. Living with my host family and school life was a very valuable experience for me. My school started at 11:00am and finished 4:00pm. After school, I was able to enjoy life in Melbourne by going to cafes and shopping with my friends every day. I could make friends who are Korean and Chinese in my class. They were very friendly for me so we were always talking together about K-pop, Japanese anime, and so on. Then they taught me their native language and I also taught them Japanese, as if like "exchange language". I think it is one of the interesting thing in the study abroad that learn not only English but foreign student's native language.

## 7. その他(自由記述)任意で記述